
年月

中原可絵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

年月

【Nコード】

N0407J

【作者名】

中原可絵

【あらすじ】

家の天井には巨大な蛾が羽を拡げたような異様な「しみ」が在った。

母と娘が暮らす家の奥に、六畳の和室があつた。その天井は、幅五十センチほどの天然木の長板を連ねた造りになっていた。その一枚に、この家を建てた時から、油が滲み出したような汚ない「しみ」が在った。

「建築の時、天井裏に猫か鼠が入って死んだ」と、母親が言った。鼠ならあり得るかもしれない。猫？ まだら模様を描いている、油が滲んだような汚ない「しみ」は、動物の死骸から出た体液？ まさかそんな……。

家を建ててから五年になろうとしていた。天井の「しみ」は、まだそれ程大きくなっていなかった。建築の補償期間は五年、クレームは五年以内に申し立てないと補償されない。

時はバブルの絶頂期、新築の家での母と娘の裕福な暮らし。忙しく日々は過ぎ、「しみ」のことは施工業者に連絡しないまま、五年が過ぎた。

天井の「しみ」は次第に大きくなっていった。家を建てて十年になろうとする頃、母親は漸く、家を建てた業者を呼んで天井を見せた。

屋上の防水が不完全だったため、雨水が浸み出していた。屋上に防水工事をして、様子を見ることにした。

「しみ」は、九十センチもの大きさになっていた。中心部が黒褐色に変色し、巨大な蛾が大きく羽を広げたような、相似形の異様な模様を描いていた。絵画のデカルコマニーのようだった。

「気持ちが悪い」と娘が言った。修繕するには、「しみ」の在る部分の板を切り取り、新しい板を貼ればよかった。

しかし、平成不況の波がこの家にも押し寄せていた。修繕する余裕が無かった。

家を建ててから、十三年目の夏、娘が癌になった。「自分はもう死ぬ」と思い込んだ娘は、鬱状態になった。

それまで寝ていた陽の当たる南向きの部屋から、奥の六畳の和室に引き籠ってしまった。天井に巨大な蛾が羽を拡げたような「しみ」がある、一日中陽の入らない薄暗い部屋は、娘の死に場所にふさわしい場所のようだった。

それからまた、十三年が経った。五年経っても再発せず、癌が治った娘は、その家で今も生きている。

相変わらず不景気は続いている。あれほど不気味で怖かった天井の「しみ」に、娘は慣れてしまった。もう、何も感じない。それはこの家に溶け込んで、この家の一部と化しているようだった。

その年の春、母親が急死した。残された娘は、奥の和室で、母親が使っていたベッドに寝ている。

天井の「しみ」は相変わらず、巨大な蛾が羽を大きく拡げたような、醜い奇妙な形をしてそこに在る。

娘は、母親が死んだ後、慌ただしく日々を過ごし、天井板を取り換えることなど考える余裕も無かった。

母親がいなくなったひとつそりとした家中、何事もなかったかのように、確かな存在感を持って「しみ」はそこに在る。まるでこの家をじっと見ているかのように。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0407j/>

年月

2011年10月9日16時21分発行